

記事掲載：2021年11月

翻訳：2022年1月

アフガニスタン：壊滅的な危機を避けるために、 人道支援を最優先にしなければならない



アフガニスタンの少女や少年が必要とする、命を救うための支援を実施するため、国際社会は、国連機関や NGO への直接的な資金拠出を早急に行う必要があります。

本記事は Modern Diplomacy の許可を得て転載しています

教育を後回しにはできない基金（ECW）事務局長ヤスミン・シエリフ

厳しい冬が迫っています。アフガニスタンの人々は、深刻な飢餓に瀕しています。教育、保健、社会保障といった基礎的な社会サービスは麻痺し、食料へのアクセスや生計手段の確保は危機に瀕しています。公務員、教員、医師、看護師の給料は支払われていません。

すでに数十年にわたる紛争に苦しんできた約 3,800 万人の人々は、今、地球上で最大の人道的危機に直面しています。力を合わせ、国際社会としての対応を強化しなければなりません。世界は背を向けてはなりません。アフガニスタンを後回しにすることはできないのです。

今は、壊滅的な危機を避けることができるかどうかの瀬戸際にあります。大惨事を避けるためには、人道上必要な支援を最優先しなければなりません。そして、国際社会が力を合わせて行う支援の中心に、教育があるべきなのです。

約 2 カ月前、タリバンにより事実上の政権が掌握された際、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの影響を受け、ほとんどの学校が長期に渡り閉鎖されていました。その後、小学校は女子・男子ともに、再開しています。中等教育レベルでは、男子に対しては全国的に学校が再開され、女子に対してはいくつかの県で再開されています。

これは心強いことですが、今こそアフガニスタンのすべての子どもたちと若者の教育を支援する必要があります。先日、ECWとして、女性だけで構成されるミッション（支援チーム）を率いてアフガニスタンを訪問した際、私は人道的な大惨事が近づいていることを目の当たりにしました。

子どもたち一人ひとり、すべての青少年、特に 10 代の少女たち、そして彼らの家族やコミュニティと国のため、私たちは、アフガニスタンのすべての少年と少女が 12 年間の質の高い教育を受ける権利のために、共に声をあげることをやめてはなりません。

教育を受ける権利は、基本的人権であり、すべての人が生まれながらにして持つ権利です。アフガニスタンの人々はそれを知っています。2000 年当時、アフガニスタンの子どもたちのうち、学校に通うことができた子どもはわずか 100 万人で、少女は 1 割以下でした。それが 2019 年には、その数は約 990 万人に増え、そのうち少女は 39%となりました。

今日、この甚大な人道的危機によって、これらの重要な成果が危機にさらされています。現在、420 万人の子どもたちが学校に通えておらず、そのうちの 60%が少女です。私たちが直ちに行動を起こさない限り、アフガニスタンの次世代の未来はかつてないほど大きな危機にさらされてしまいます。

開校している学校に対しては、早急な支援が必要です。教員の給料を支払わなければなりません。指導や学習のための教材も必要です。特に女性教員や少女にとって、学校が安全な学習空間であることを保証するための支援が求められています。また生徒は、保健や心理社会的サービス、栄養、水、衛生といったサービスへのアクセスが必要です。

脆弱な状態にある家族が、やむを得ず子どもたちを児童労働や児童婚に追いやるのではなく、子どもたち、特に少女たちを学校に通わせるための支援が必要です。食卓に食べ物を並べるためだけに、女兒の赤ん坊を売る家庭の悲劇的な報告もあります。

アフガニスタンでのミッションの際、私は現地で国連機関や国際・現地非政府組織（NGO）の関係者と会いました。国連児童基金（ユニセフ）には、教員の給料を支給し、地域に根差した学習センターを拡大

する能力があります。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連世界食糧計画（WFP）、そしてセーブ・ザ・チルドレンなどの数多くの NGO や、スウェーデン・アフガニスタン委員会、アガ・カーン財団などもアフガニスタン全土に存在し、教育のニーズに素早く対応する能力を持っています。

状況を前向きにとらえる理由があります。スウェーデン・アフガニスタン委員会は、支援を行う 14 の県の中等教育レベルの学校に女子生徒を戻す交渉に成功しました。またユニセフは教員の給料をすぐにも支給する準備が整っています。

しかし、そのためには、緊急に多額の資金が必要です。アフガニスタンにおける教育対応には、総額 10 億米ドルが今すぐに必要です。

タリバンによる政権掌握以降、事実上の政権が国際的に認知されていないため、海外からの援助の大部分は凍結されています。しかし、二国間、及び多国間援助のための直接的な資金拠出の方法（モダリティ）により、国際的なドナーやパートナーは、国連機関または NGO に直接資金を送金することができます。

国連が開発したこの支援の方法は、危機に直面する脆弱な子どもたちや女性、家族に直接かつ迅速に援助を届けることを可能にします。これは食料、水、避難所などの緊急支援として、数十年にわたり効果的に活用されています。

私は、カブールの事実上の教育担当者とも面会しましたが、彼らは、少年や少女への教育など、基本的な社会サービスの提供を支援するため、国連や NGO のパートナーがこの直接的な資金拠出の方法に反対してはいないとのことでした。

国際的な援助ドナーは、従来、途上国政府と連携し、長期間の開発投資を通じて教育支援に取り組んできました。しかし、紛争や危機が多発し、より長期化する中で、このパラダイムを転換していく必要があります。

アフガニスタンのような危機的状況において、直接的な資金拠出の方法は、支援や持続的な援助介入のための効率的な解決策を提供し、これにより子どもたちや若者に質の高い学習機会を提供が可能となります。

ECW は、緊急事態や長期化する危機に対処する教育のための国連の国際基金であり、この方法で、危機の影響を受ける子どもたちに結果を出すことを目的とし、5 年前に設立されました。

ECW は国連機関や NGO に資金を拠出し、調整の上協働して、人道的危機においては命を救うことになる教育、そして質の高い教育を求める子どもたちとその家族に対する支援を行います。

単一の援助機関では彼らのニーズのすべてを満たすことができないため、ECW は、プールされた資金を迅速に支出し、直接執行することで、国連機関と NGO が協力して活動できるよう設計されました。

ECW は、現地のパートナーとともに、2018 年からこのアプローチでアフガニスタンにおける人道的な責務を実現してきました。地域に根差した教育や、学習促進プログラムにより、前政権の支配下にはない地域を含め、疎外された子どもたち（うち 58% は女子）を支援してきました。

アフガニスタン全土で治安に関する事件が大幅に減少してきているため、現在、国連や NGO のパートナーは新しい地域にアクセスできるようになっています。このことは、十分な資源があれば、これまで学校に行かなかった子どもたちや若者に学習の機会を提供するための、地域に根差したプログラムを直ちに拡大させられるということを意味しています。

ドナーからの緊急支援があれば、カブールにある女子のための小学校を訪問した際に出会ったアーレズーのような少女たちに、本や安全な学習空間、メンタルヘルスと心理社会的サポートを提供することができます。また、この学校で出会った勇敢な女性教員のように、献身的な教員が仕事をするために必要な資源、教材、トレーニングを支援することもできます。

教育への投資に対する効果は素晴らしいものがあります。1 年の学習機会を得るごとに所得は 10% ずつ上がり、世界銀行は、世界中のすべての少女が 12 年間の教育を修了することができれば、さらに 15 兆ドルから 30 兆ドルの投資効果を生み出すことができると試算しています。

アーレズーは、アフガニスタンで学び、成長し、夢見る機会を得るに値する何百万人もの少女のうちの一人数です。私たちは、人道上必要とされていることに焦点を充て、アーレズーのような子どもたちの命と権利に投資しています。政治は一旦脇に置き、まず私たちの人間性を第一に考えましょう。

つまり、人間として、正しいことを共に行いましょう、ということです。アフガニスタンの次世代の少年や少女が成長し、その潜在能力を最大限に発揮できるようにするために。彼らの教育を後回しにはできません。アフガニスタンを後回しにはできません。私たちは共に行動しなければなりません。今すぐに。

【翻訳前の記事（英語）】

[Afghanistan: The Humanitarian Imperative Must Come First to Avoid Catastrophe - educationcannotwait](#)